

一九二八番

狭野方は 実にならずとも 花のみに 咲きて見
えこそ 恋のなぐさに

一九二九番

狭野方は 実になりにしを 今更に 春雨降りて
花咲かめやも

一九三〇番

梓弓 引津の辺なる なのりその 花咲くまで
に 逢はぬ君かも

一九三一番

川の上の いつ藻の花の いつもいつも 来ませ
我が背子 時じけめやも